

実績紹介フォーム

1. 利用情報

コンテンツを利用した教育機関名(学校名・学部学科等)	大阪情報専門学校
コンテンツを利用したコース名・講座名等	システムデザイン
利用教育コンテンツ名	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ
教育コンテンツの利用形態 (□にチェックし、必要事項にご記入ください)	1. 利用したコンテンツ
	<input checked="" type="checkbox"/> ①シラバス
	<input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド
	<input checked="" type="checkbox"/> ③講義ノート
	<input checked="" type="checkbox"/> ④演習課題
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤各種設計書
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド
	<input type="checkbox"/> ⑧受講レポート
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑨ソースコード
	2. コンテンツの利用方法について
	(1) 上記コンテンツで、②講義スライドおよび③講義ノートを利用された場合
	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教育コンテンツ全てをそのまま利用
	<input type="checkbox"/> 2. 教育コンテンツの一部をそのまま利用 (利用範囲) _____
	<input type="checkbox"/> ③教育コンテンツを改変して利用 (改変範囲) _____
(2) 上記コンテンツで、④演習課題・⑤演習用各種設計書・⑨ソースコードを利用された場合	
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教育コンテンツ全てをそのまま利用	
<input type="checkbox"/> 2. 教育コンテンツの一部をそのまま利用 (利用範囲) _____	
<input type="checkbox"/> 3. 教育コンテンツを改変して利用 (改変範囲) _____	
(3) 上記コンテンツで⑦ティーチングガイドを利用された場合	
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教育コンテンツ全てあるいは一部をそのまま利用	
<input type="checkbox"/> 2. 授業の内容および進行に合わせ、追記・訂正等改変して利用 (改変内容) _____	

講座の構成(シラバス) ※单元ごとの学習項目、講義と演習・実習の時間配分などを記す			
单元と時間配分(1コマ=	90 分で実施)	演習・実習	実施担当講師
全般的にシラバスに沿って実施しました。しかし、シラバス上で宿題となっていた箇所は授業の時間として問題を解かせ、20時限程度になりました			
コンテンツ利用に至る背景	良いシステム開発のコンテンツがなかったため		
コンテンツ利用の狙い、目的・目標	良い演習課題を学生にさせ、疑似的なシステム開発を経験させるため		
コンテンツ利用にあたっての課題・懸念	本校はJavaを教えており、C言語でのプログラミング工程をどうするか		
講座の位置づけ 既存講座との関係	システムデザイン=システム設計なのでぴったり一致していました		
履修前提条件	もともと挙げられていたC言語の知識		
授業準備と実施の体制	1人で準備と実施		
成績評価の方法	課題の提出や、理解度をテスト		
講座ならびに演習・実習の具体的な進め方	ほぼシラバスに沿って講義を実施、C言語は習っていないので、C言語の答えのソースファイルを配り、詳細処理設計書を埋めさせました(リーバースエンジニアリング的な事をしました)		

2. 講座実施後の情報

受講者の声 (受講目的、修得目標)	目的と目標は講師側から示しました 目標と目的:システム開発の流れを演習課題を通して体験し、実感すること
受講者の感想 (本講座で得られたもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・上流工程を経験することができて良かった ・グループで開発を体験できてよかった ・難しかった
教員の評価	<p>演習課題を実施させるには、講師はある程度の開発知識と複数のグループを管理する能力を持っていないといけないと感じました</p> <p>また、演習課題の実施状況をグループ単位に頻繁にチェックし、報告させることをしないとグループごとの進捗に大きな違いが発生すると感じました</p> <p>講師側もこのコンテンツを使いこなすには、一度経験する必要があると感じました</p>
今後の展望 (継続に向けた課題)	

その他(ご意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス通りに行くと、能力の差が学生ごとに大きい場合、課題の進捗が極端に遅れる状態が発生しました。なので、状況によってヒントを小出しにしていける必要がありました。 ・コンソールアプリケーションはGUIアプリケーションに慣れ親しんでいる学生にはイメージがしづらいものになっていました
-----------	--